



2015 年度聖書の集い（第 1 回）

2015 年 5 月 13 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 498 番 「主われを愛す」
- 2、お祈り
- 3、聖書 ヨハネによる福音書 13 章 31 節～35 節」（新約聖書 195 ページ）
- 4、今日の内容
神さまってどんな方？「① わたしたちを愛してくださる方」

今年度第一回の「聖書の集い」が始まりました。どうぞこれから一年間、よろしくお願ひいたします。昨年度と同様に、このようなレジメを毎回作ります。読み返す時などに、どうぞお使いください。また教会のホームページにもアップしていきますので、ご用事などでお休みの時にも見ていただけたら幸いです。

さて今年度は、「神さまってどんな方？」というテーマのもとに、すすめていきたいと思ひます。キリスト教の神さまとはどのような方であると聖書は書いているのか、そのことについて考えていけたらと思ひます。

① 聖書は神さまからのラブレター

みなさんはラブレターを書いたことがありますか。その時に、どのような言葉を入れていたでしょうか。わたしが学生の頃は今のように携帯電話やスマホはありませんでした。ですから誰かに自分の思いを伝えるためには、直接言うか、電話をするか、手紙に書いて渡すかしかありませんでした。

また子どもたちが時々手紙を書いてくれることがあります。その時に「大好きだよ」と書いてあると、とてもうれしいですね。

聖書は実は、神さまからのラブレターなのです。みなさんが今持っておられる「新約聖書」という本の中に、愛という言葉が何回書かれているか、調べてみました。なんと 363 回も出てくるのですね。一年に一回、新約聖書を読むとすると、ほぼ毎日、神さまが「愛しているよ」と言ってくれることになるのです。

② 聖書の愛って何？

でも「愛している」って言われても、何だかくすぐったいですよね。わたしは九州で育ちましたので、簡単に男性がそのような言葉を使ってはいけないと教えられていました。

でも聖書のいう「愛」はわたしたちが一般に思い描く愛とは、少し違うのかもしれませんが。昔の聖書では、この「愛」という言葉を「御大切」と翻訳していました。とってもとって大切にする。そこには理由などない。見返りも求めない。ただ一方的に与えるもの、それが聖書の「愛」なのです。

わたしはこの愛と、幼児期の子どもに対する母親の愛とはとても似ているように思います。でもだんだん見返りを求めてしまったり、愛することが出来る時と出来ない時が出てきたり、そうなることもあるかもしれません。しかし神さまがわたしたちに対して与えられる愛は、いつだって変わることがないのです。

③ 愛されているわたしたちができること

そして聖書はこのように語ります。

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

神さまがわたしたち一人一人のことをとって大切に思っているように、わたしたちも周りにいる人たちのことを、大切に思うようにと神さまは伝えられているのです。

とても難しいことです。わたしたちは何をすべきでしょうか。まずわたしたち自身が神さまに愛されていることを知りましょう。実感がないかもしれません。そんなもの必要ないと思われるかもしれません。でもきっと、「大切に思ってくれる存在」に気づく時がくるでしょう。その時にどうぞ、今日の話思い出してください。

そして、神さまからいただいた大きな愛を、そのほんのわずかでもいいので、周りの人たちと分かち合ってください。子どもたち、お連れ合いさん、ご家族、お友達、そして今、悲しい思いをしている人たちと。神さまはそのためにわたしたちを愛してくださっているのです。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から